

# 平成26年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－1号)

農林総合研究センター  
平成26年5月19日調査

## 気象経過

1. 4月上旬は、平均気温が金沢で平年並、輪島で低く（平年比：金沢 $-0.1^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $-0.4^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢、輪島ともかなり多く（平年比：金沢142%、輪島135%）なった。中旬は、平均気温が金沢で低く、輪島でかなり低く（平年差：金沢 $-0.9^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $-1.6^{\circ}\text{C}$ ）なった。日照時間は金沢、輪島ともかなり多く（平年比：金沢138%、輪島134%）なった。下旬は、平均気温が金沢、輪島ともに高く（平年差：金沢 $+0.7^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+0.7^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢で平年並、輪島で多く（平年比：金沢107%、輪島110%）なった。
2. 5月上旬は、平均気温が低く（平年差：金沢 $-0.7^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $-0.5^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢でかなり多く、輪島で多く（平年比：金沢118%、輪島114%）、降水量は金沢でかなり少なく、輪島で少なく（同：金沢30%、輪島59%）なった。第3半旬は平均気温が金沢、輪島とも高く（平年差：金沢 $+2.3^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+2.3^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢で平年並、輪島で多く（平年比：金沢100%、輪島111%）なった。降水量は金沢で少なく、輪島で平年並（平年比：金沢78%、輪島83%）となった。
3. 5月19日発表の週間予報では、向こう1週間の最高・最低気温は平年並または高い、降水量は平年または少ない見込みとなっています。

（以上、金沢地方气象台）

## 生育概況等

### 【育苗】

1. 播種は3月末から開始され出芽揃いは概ね良好であった。4月は低温で経過したもの、日照時間が長く、保温管理の徹底により第1鞘高長及び苗丈は平年並となった。
2. 乾物重はやや重く、充実度は平年に比べやや高くなった。
3. 病害虫では、一部で細菌性病害の発生が見られた。

### 【本田の生育】

1. 田植え始期は、加賀地区で4月29日、能登地区で5月2日、田植盛期は、加賀地区で5月4日、能登地区で5月6日、県全体では5月5日と平年に比べ1日遅くなった。
2. 軟弱徒長苗や低温・強風により一部で植え傷みが散見されたが、田植え後は概ね好天となり、活着は良好で生育は順調である。
3. 草丈はコシヒカリ、ゆめみづほとも平年並（コシヒカリ：加賀93%、能登97%、ゆめみづほ：加賀98%、能登96%）、葉数展開は、平年に比べやや早い（ $+0.1\sim+0.4$ 葉）。

### 【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が一部で散見される。

## 当面の対策

### 【本田】

1. 浅水管理により、良質分けつの確保に努める。
2. 好天時には軽い田干しを必ず行い土壌中のガスを取り除き、根の健全化を図る。特に中期除草剤散布前には必ず田干しを行ない、稲体の軟弱化を防止する。
3. 除草剤は、稲の生育状況、ノビエ等雑草の発生程度および葉齢を十分把握し、適正な時期に散布する。除草剤散布後7日間は落水や掛け流しをしない。
4. 中干しは、目標茎数（目標穂数の約70%、1株当たり コシヒカリ：13～15本、ゆめみづほ：15～17本）に達したら直ちに開始する。

**【病害虫】**

1. 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので早急に取り除く。
2. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり 0.3 頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布する。